

23. のぞわな

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
36	ネビジン粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	非結球あぶらな科葉菜類
29	フロンスイド粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	—	—	野菜類（キャベツを除く）
	コサイド3000	散布	—	—	野菜類
	ドイツボルドーA	散布	—	—	野菜類
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	—	野菜類（なすを除く）
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫14日前まで	3回以内	
—	バイオキパー水和剤	散布	発病前～発病初期	—	野菜類（かぼちゃ、ズッキーニを除く）

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	(ジノテフラン) アルバリン粒剤 スタークル粒剤	播溝土壌混和	は種時	1回	非結球あぶらな科葉菜類（チンゲンサイを除く）

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6+15	アフームエクセラ顆粒水和剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
6	アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
1	オルトラン水和剤	散布	収穫21日前まで	1回	非結球あぶらな科葉菜類（ケル、からしな、ルッコラ、四川搾菜（茎葉）、畑わさび、畑わさび（葉）を除く）
3	スカウト乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期（但し、収穫前日まで）	—	野菜類（パセリ、えごま（葉）を除く）
11	バシレックス水和剤	散布	発生初期（但し、収穫前日まで）	—	野菜類
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫7日前まで	1回	非結球あぶらな科葉菜類（チンゲンサイを除く）

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
根こぶ病 (F)	は種前	1. 抵抗性品種を採用する。 2. ネビジン粉剤を10a当り30kg、又はフロンサイド粉剤を10a当り30～40kg、全面に均一散布し、土壌とよく混和する。	1. ネビジン、フロンサイドの注意点は、「22. チンゲンサイ」の項を参照する。
白さび病 (F)	生育期間	[参考農薬] 1. ジーファイン水和剤 1,000 倍液を散布する。	1. 収穫葉展開以降の散布は、葉害を生じる恐れがあるので使用しない。
べと病 (F)	生育期間	[参考農薬] 1. ストロビーフロアブル3,000 倍液を散布する。	1. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
軟腐病 (B)	生育期間	[参考農薬] 1. Zボルドー、ドイツボルドーAの500倍液、ジーファイン水和剤1,000倍液、コサイド3000の2,000倍液のいずれかを散布する。 2. バイオキーパー水和剤1,000倍液を散布する。	1. 銅剤及びジーファインは収穫葉展開以降に散布すると葉害を生じる恐れがあるので使用しない。 2. バイオキーパーは生物農薬である(「56. 野菜類の総括注意」参照)。
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	は種時	1. シルバーストライプフィルムをマルチする。 2. ジノテフラン(スタークル、アルバリン)粒剤を10a当り6kg播溝土壌混和する。	1. 春は晩まき、秋は早まきで被害が大きい。 2. 発芽を確実にするため、適温時にマルチしては種し、高温障害防止のため、土とフィルム面を密着させる。 3. 多発地帯は寒冷紗トンネル被覆をするとよい。 4. 生育初期防除が重要である。 5. 散布間隔は10日以内がよい。 6. スカウトは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	生育時期	[参考農薬] 1. オルトラン水和剤、スカウト乳剤の1,500倍液、モスピラン顆粒水溶剤4,000倍液のいずれかを散布する。	
コナガ	生育期間	[参考農薬] 1. アファームエクセラ顆粒水和剤、トアロー水和剤CT、バシレックス水和剤の1,000倍液、アファーム乳剤1,000～2,000倍液のいずれかを散布する。	1. アファーム、アファームエクセラは蚕毒及び魚毒に、バシレックスは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. トアローCTは蚕毒に注意する。
アオムシ	生育期間	[参考農薬] 1. アファーム乳剤1,000～2,000倍液を散布する。	1. アファームは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
キスジノミ ハムシ	は種時	1. ジノテフラン(アルバリン、スタークル)粒剤を10a当り6kg、播溝土壌混和する。	